

シュークリームが 膨らまない

2022 #5
マックでさよなら
スズキくん-空へ
(後編)



シュークリームが膨^{ふく}らまない！

マックでさよならスズキくん-空^{そら}へ

今日は「マックでさよならスズキくん-空^{そら}へ (後編^{こうへん})」というタイトルで

前^{ぜん}回^{かい}のスズキくんのちょっと恥^はずかしい言^いい間^ま違^がい^{かん}に^{れん}関^{かん}連^{れん}して、

今^{こん}回^{かい}はカタカナ語^ごについて、お話^{はな}しし^しよう^{おも}と思^{おも}います。

1) 現代に溢れかえるカタカナ語

本来「持ち帰り」^{ほんらい も かえ}で、^い言え^いば良いところ、^かっこつけてカタカナで「テイクアウト」といい^たがる。が、^い言^い損^そね^ね¹⁾「テイクオフ」。^はか^らず^も²⁾マックより離^り陸^りをし、どこかへ^と飛^たび立^たってしまったスズキング。^まよ^なか^あか^ぼじ^まな³⁾真夜中の赤っ恥³⁾に学^まぶことは、現代社会にはカタカナ語が溢れかえ^っていて、や^っぱり日本人にと^ってもカタカナ語^ごって^いうのは、^{かん}たん^{たん}簡単ではないんだ^いうこと。

自^じ分^{ぶん}の^はな^し話^わを^しま^すと、^{さい}き^ん最近^{では}、アジェンダ (agenda)、ローンチ (launch)、スポイル (spoil) とマージ (merge) ^じか^ん ^さに^時間^を割^き⁴⁾、コスパ、フロントガラスに^とき^{なが} ^と時^の流^れを^とめ、TV から^き聞^こえてくるサステナブル (sustainable) とプロトタイプ (prototype) に^わら^うしか^なく^なる。^ひび^{せい}か^つ ^なか^で日^{々の}生^活の中^で出^くわ^すカタカナ語^ごに^{たい}し、自^じ分^{ぶん}が^{そう}ぞう^いじ^{ょう} ^じし^ょ ^ひら^じか^ん ^おお^お自分が^おお^お想像^{して}いた^{以上}に^じ辞^書を^ひら^く時^間が^たか^った。

2) 日本政府とカタカナ語

少^すこ^{ふる} ^きじ^き古^い記^事に^なる^んで^すが、2020年、2年前、その^{とう}じ^{こう} ^のた^らう^ろ ^う河^野太^郎防^ぼう^{えい}相^{しょう} (防^ぼう^{えい}大^{だい}臣^{じん}) が、^{しん}が^た ^{かん} ^{もち} ^ご新^{しん}型^がコ^ろナ^ウイ^ルス^に関^{かん}して^用い^られる^{カタ}カ^ナ語^をめ^ぐり¹⁾、^わ ^に ^{ほん} ^ご ^{つか} ^ぼう^{えい} ^しょう ^{こう} ^{せい} ^{ろう} ^{どう} ^しょう ^{もう} ^い ³⁾分^わかり^{やすい}日^{ほん}語^を使^{つか}う^{よう}に^防衛^省から^厚生^省労働^省に^{しん}し^いれ^た³⁾と^あ ^き ^じ ^しょう ^{かい}明^あか^{した}と^いう^記事^があ^った^{ので}ご^紹介^しま^す。
つ^づ ^き ^じ ^{いん} ^{よう}続^{つづ}けて、^き ^じ ^{いん} ^{よう}記^き事^を引^{いん}用^{よう}し^ます。

河^{こう} ^の ^し ^に ^ち野^の氏^はは^{ツイ}ッター^で22日、^く ^ら ^す ^た ^ー ^す ^た ^ー ^し ^{ゅう} ^だ ^ん ^{かん} ^{せん}「ク^ラス^ター ^し ^{ゅう} ^だ ^ん ^{かん} ^{せん}集^し団^{だん}感^{かん}染^{せん} ^お ^ー ^ぶ ^ー ^し ^ゅ ^ー ^とオ^ーバ^ーシ^ュエ^ート

感^{かん} ^{せん} ^{ばく} ^{はつ} ^と ^し ^ふ ^う ^さ ^で ^は ^だ ^め ^な ^の ^か ^な ^ん ^で ^か ^た ^か ^な [?]」と

聞き慣れないカタカナ用語の使用を疑問視²⁾。27日時点で6万8000回以上リッ

イトされ、24万回以上の「いいね」を集めた。

そして、同じ記事に次のように河野氏の発言が引用されています。

「今回のコロナに関連して専門家の先生方が色々とおっしゃるのですが、私の周りにも『何を言ってるか分からない』という声がありましたので、防衛省のほうから厚労省に対して『分かりやすい日本語を使ってください』という申し入れ³⁾をしているところがございます。政府の発信でございますから、万人が分かりやすい言葉でやるべきだろうと思っております」

(「「分かりやすい日本語を」防衛省の申し入れ、河野太郎氏は過去にも「カタカナ用語」に取り組む」
J-cast ニュース、2020年03月27日22時06分、最終閲覧日2022年6月4日)

ここから分かることは、日本で日本人が使っているから、日本人がカタカナ語みんな分かっているかといえば、そうじゃないってことですね。「何言ってるか分からない」って思っている人も、よかった、いるんですね。調べまくって⁴⁾ いるのは私だけじゃないはずだと、ほっとします。

3) どうしてカタカナ語を使うのか。

どんなことばにも言えることだと思っんですが、あまり人が使っていないことばを使ったり、みんなが知らないことばを知っていたりすると頭がよさそうには見えませんよね。なに言ってるか分からない。⇒自分の知らないことを言ってる。⇒

あたま
頭あたまがいいんだ！って、このフロー。それから、もう一つは「公開する」を「ロー
ンチする」っていうように、ちが い かた
違う言い方にすると、いま ちが あたら かん
今までと違った新しい感じに
き
は聞こえる。しんせん
新鮮さがある。

「カタカナ語をどうして使うのか」、とどのつまり¹⁾は、ただ単に「かっこいい
から」に尽きる²⁾んじゃないかと。

げんざいほうそうちゅう ねんはる
現在放送中の2022年春ドラマ「悪女ワル」の第4話で、主人公の田中麻里鈴が
かいしゃ
会社でミーティングに参加して、「プロトタイプ」という聞きなれないことばを耳
にしました。プロトタイプはしさくひん
試作品という意味だと教えられ、マリリンはノートに
このようにメモをとります。「試作品をかっこつけて呼ぶとプロトタイプ」

「かっこよさ」、それこそが、カタカナ語のしんずい
真髓³⁾じゃないかな。エビデンスに
なるか分かりませんが、じっさい
実際に『カタカナ語スピードマスター』(Jリサーチ出版、
2009年6月)という本の中にも「カタカナ語が「新しい」「現代的」「かっこい
い」イメージを与える」というように記されている。つぎ つぎ で
次から次に出てくる新しい
カタカナ語の中に、そんなイメージ操作を狙ってないものは、ぎやく
逆にどれくらいあ
るんだろう。

いま じしょ の
今、辞書に載っているようなカタカナ語は、時代時代に「かっこいいな、この
がいこく
外国のことば」っていう人々の思いによって使われてははじめ、そして、ひろ にんち
広がり認知
され、とき なが
時の流れに淘汰⁴⁾され、いま のこ
今に残ったもの。・・・だったりして。

4) 結局、全部コーヒー牛乳でしょ??

カフェオレ、カフェラテ、カプチーノ、それぞれ違うものなんですけど、入れ方とかコーヒーの種類、コーヒーと牛乳の割合などの違いであって、結局は、コーヒーと牛乳の飲み物でしょ?って思うんですね。ちなみに調べたんですけど、コーヒー牛乳とカフェオレは「カフェインの量と香りが違う」、そして、コーヒー牛乳⇒主役が牛乳、カフェイン量15mg (150ml)。カフェオレ⇒主役がコーヒー、コーヒーに牛乳を注ぐ、カフェイン量70mg (150ml)。コーヒーと牛乳の割合は1対1、フランスで朝に飲まれることが多いそうです。カフェラテはエスプレッソにスチームミルクを入れたもの。イタリア・ベネチアの喫茶店が発祥らしい。カプチーノはホットドリンクで、エスプレッソにスチームミルク＋フォームミルク (細かく泡立てたミルク) を入れたもの。これも、イタリアの飲み物。フランスでは「カフェ・クレーム」と呼ばれている。でも、結局は、コーヒーと牛乳に間違いなし、全部茶色い飲み物だし、コーヒー牛乳、牛乳多め、コーヒー濃いめ、コーヒーに泡牛乳を注ぐとか、コーヒーと泡となめらかな泡とか、もうそんな呼び方でもいいんじゃない?って思います。

コンビニにカフェオレ、カフェラテ、カプチーノ、コーヒー牛乳の4つがあって、どれ買う?って、聞かれたら、わたしは「どれでもいい」って言うでしょうね。わたしにとって重要なのは、砂糖が入っているかどうかで、あとは同じ。全部同じ。



そういうコーヒーと牛乳の飲み物に対するこだわりなしの私ですが、ことばの響きによる、イメージの違いはしっかり感じています。例えばですが、これは私の個人的なイメージなので、参考にしないでください。そして、誰も怒らなくてくださいね。おじいさんが飲んでいるのがコーヒー牛乳？おばさんが飲んでいるのがカフェオレ？おしゃれな人がカプチーノを飲んで、忙しいビジネスマンがカフェラテを飲む？でも、カフェラテっていうとちょっと古い感じもしないから、「ラテ」と呼ぶだろうな、と。

まあ、コーヒー牛乳云々¹⁾、どうのこうのより、カフェオレ、カフェラテ、カプチーノと言ったほうが遙かにかっこいいというのは認めます。響きが。東京のおしゃれなカフェで「カプチーノ1つ」と口に出して言ってみたい願望もある。東京の高層ビル群を前に、「コーヒー牛乳1つ」頼むやつはいません。コーヒー牛乳、それは、家のテレビの前か、銭湯で風呂から上がったときか、中学校の部活の帰りにたい焼き²⁾と一緒に飲む飲み物です。



5) かっこいい VS ムカつく

「このことば、かっこいいぞ」との狙いで用いられているのではないかという説は、カタカナ語の検索関連ワードにも裏付けされます。「ローンチ (launch)」、「ローンチ使う人」「むかつく」「意識高い系¹⁾」
「なぜ使う?」。さらに、検索に出てきたブログのタイトルが「なぜバカは”カタカナ語”を使いたがるのか 本当の意味」「言いたいだけでしょ!?他人が使ってい

て鼻^{はな}についたカタカナ用語^{ようご}」などと、「ローンチ」を使う人、若干^{つか ひと}嫌^{じゃっかんきら}われてます。

変^{へん}なカタカナ語^ごを聞^きかされるほうの思考^{しこう}展開^{てんかい}は、まず「ローンチ」って始めて聞^きいて、「ローンチ」って何^{なん}だよ、となる。で、調^{しら}べる。「公開^{こうかい}じゃねーか。公開^{こうかい}って言^いえよ」。で、嫌^{いや}な印象^{いんしょう}を持^もつ。再^{ふた}び、「ローンチ」を聞^きく。「使^{つか}いたいの^わは分^わかったけど、つまり、公開^{こうかい}だろ？」ってなる。何^{なん}、ローンチローンチいってんだよ。英語^{えいご}できますをひけらかして²⁾るんじゃねーよとなる。そいつの言^いうことが鼻^{はな}につく³⁾。で、どんどんムカついてくる。って感^{かん}じかな。2022年^{ねん}春^{はる}ドラマ・悪女

(ワル)の第^わ6話^みにも、こんなセリフが見^みられました。「カタカナ言^いってりや⁴⁾、かっこいいと思^{おも}ってんだろ〜」。主人公^{しゅじんこう}・田中^{たなか}麻理^{まり}鈴^{りん}の先輩^{せんぱい}・小野^{おの}忠^{ただし}が入^{はい}ってきただばかりの新^{しん}入^{にゅう}社員^{しゃいん}を批^ひ判^{はん}して。

6) おわりに

たしかにカタカナ語^ごが上^{じょう}手^ずに使^{つか}えると、頭^{あたま}が良^よさそう、かっこいいって感^{かん}じはします。一方^{いっぽう}で、過^か剰^{じょう}なカタカナ語^ごに対^{たい}しては、「何^{なに}言^いってんのか分^わからない」
「鼻^{はな}につく」、そして、「むかつく」と感^{かん}じる人^{ひと}もいるということ。コロナ禍^かも2年^{ねん}が過^すぎ、クラスター、ロックダウンは浸^{しん}透^{とう}したけれど、オーバースhootは聞^きれなくなりました。今^{いま}、オーバースhootと調^{しら}べると金^{きん}融^{ゆう}・証^{しょう}券^{けん}用^{よう}語^ごの解^{かい}説^{せつ}が検^{けん}索^{さく}上位^{じょうい}に来^きます。現^{げん}在^{ざい}進^{しん}行^{こう}形^{けい}でどんどんどんどん出^でてきているカタカナ語^ごですが、
本^{ほん}当^{とう}に人^{ひと}に受^うけ入^いれられるものしか、日^に本^{ほん}語^ごの中^{なか}に残^{のこ}っていかないのだなあと思^{おも}

いました。「サステイナブルな高収入」「サステナブルな国」「サステナブルな売り方の提案」「サステイナブル (sustainable)」は淘汰に屈せず、10年後まで持続可能なのでしょうか。

マックでかっこつけて「テイクアウト」、を言い間違えて「テイクオフ」、いずこへ「飛び立って」いってしてしまったスズキング。今はどこにいるのだろう。スズキングの置き土産。色々考えさせてくれて、ありがとう！今回の話を一言で言えば、「かっこつける」のは、相手を選ぼうねということに尽きると思います。

それから、最後になんですが、実は今日はわざと意識高い感じのカタカナ語を少し使いながら、話してみたんですが、どこか気がつきましたか。変な使い方をしていたかもしれません。

それでは、今日はここまでにしましょう。今日は、スズキくんの赤っ恥エピソードから、現代のカタカナ語をテーマにお話しました。最先端のカタカナ語もありましたね。皆さん、前半後半と長い時間お付き合いくださってありがとうございました。

では、また今度。失礼します。

※この口頭原稿を読みながら、ポッドキャストの録音をしています。原稿と録音には違うところもありますので、ご了承ください。

カタカナ語についてよくまとまっている論文です。

🔗 [「カタカナ語について」](#) 大東文化大学法学部法律学科4年 金子 洋介